

腸内細菌研究が創出する健康・医療新産業

日時

2022年3月16日(水)
12:00~12:50

会場

ミーティングルームB

座長

京都大学大学院農学研究科
小川 順 教授

腸内細菌研究は、ゲノム科学の進展によりそれまでの単離同定を主とした解析から、microbiotaやmicrobiomeと称される菌叢の俯瞰的解析へと大きく転換した。今後、一細胞レベルでのゲノム解析や、膨大な分子・代謝物を対象とするメタボロミクス解析などのオミクス解析、くわえて、健康状態や疾患と腸内細菌叢・食事・腸内細菌代謝物との関連性を読み解くコホート研究などの情報科学により、腸内細菌と疾患・健康に関する知見はさらに深化すると考えられる。このような状況は、腸内細菌研究を起点とした新たな健康・医療産業の胎動をうながしている。本セミナーでは、その具体例を紹介するとともに、今後の腸内細菌研究の動向、関連する健康・医療新産業の創出を議論したい。

新規創薬・食品モダリティとしてのマイクロバイームと ポストバイオティクスの可能性

医薬基盤・健康・栄養研究所 ワクチン・アジュバント研究センター
國澤 純 センター長

「腸内環境」や「腸活」「善玉菌」などの言葉が広く知られるようになった社会の変化やその基盤となる学術的な発展と共に、特定の細菌を投与することで疾患の予防や治療を目指すマイクロバイーム医薬品の可能性が見えてきた。また、食品開発の観点からは、「ポストバイオティクス」という新しいキーワードのもと、食品成分を基質に腸内細菌が産生する有用物質が、ヘルスケア領域を創出する新たなコンテンツとして注目されている。

私たちは現在、食品成分と腸内細菌が形成する腸内環境と健康との関係について、ヒトを対象とした研究と動物モデルを用いた基礎研究とを融合的に進めることで研究の高度化を行い、さらに、得られた知見をもとに、創薬や食品の開発、新たな健康増進システム作りなどへ展開する研究を行っている。本講演では、我々の最近の知見を中心に、腸内環境が新しい社会に貢献する可能性について紹介したい。